

記入日（西暦）2026 年 1 月 5 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書 （最終報告）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2023 年度医療薬学学術第 1 小委員会
研究テーマ	電子添付文書および添文ナビの利活用実態と、その普及に向けた調査研究

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	アオモリ トオル
	氏 名	青森 達
	所属施設の名称 (正式名称)	高崎健康福祉大学

構成委員	氏 名	所 属
	大谷 壽一	慶應義塾大学病院
	津田 壮一郎	慶應義塾大学病院
	中田 英夫	慶應義塾大学病院
	清宮 啓介	慶應義塾大学薬学部
	荒木 拓也	群馬大学医学部附属病院
	伊藤 護之	埼玉医科大学病院
	赤嶺 美奈	和同会薬局
	島田 淳史	スエヤス調剤薬局
	坂口 眞弓	みどり薬局
	田中 みずき	みどり薬局

3. 研究の目的

添文ナビは、医薬品等の PTP シートや容器等に表示された GS1 コードをスマートフォン等のモバイル端末で読み取ることにより、電子添文、インタビューフォーム、RMP など PMDA で公開している医薬品情報を閲覧することができるアプリケーションである。医療関係者はこれまでよりも速やか、かつ場所を選ばずに最新の添付文書にアクセスすることができるが、その導入の効果を評価した報告はない。

本研究では本アプリ導入前後における医薬品情報へのアクセスに関する質的・量的変化、および添文ナビや電子添付文書の有用性や課題に関し調査する。

本研究の目的は添文ナビの使用状況や改善すべき点、普及上の課題等を明らかにし、さらに電子添付文書の使いやすいフォーマットを検討することで、今後の利活用の推進につなげることである。

4-1. 研究活動の総括

1. 研究方法の概要

本調査研究では、はじめにインタビュー調査を実施し、202名の医療・福祉・介護関係職を対象とし、電子添文の閲覧環境、利用状況、改善要望等を構造化形式で聴取した。また次に行うアンケート調査に向けて、質問の内容、構成、質問文の最適化を行った。次に行ったアンケート調査では、1184名から回答を得て、電子カルテ等の導入状況、電子添文の閲覧手段、添文ナビの認知・利用状況、望ましい機能やレイアウトについて分析した。

2. 電子添文の利用実態

電子添文の主な閲覧手段は、いずれの職種においても電子カルテや電子薬歴であった。スマートフォンや PC によるインターネット検索も一定程度利用されていたが、専用アプリの利用は限定

的であった。また、紙の添付文書や印刷物も併用されており、完全な電子化には至っていない現状が示された。医薬品情報は、処方、投薬、持参薬確認、栄養指導など、職種横断的に幅広い場面で必要とされていた。

3. 添文ナビの評価と課題

添文ナビの認知度は薬剤師では比較的高かったが、その他の職種では低く、利用していない理由として「知らない」「使用を検討したことがない」が多く挙げられた。一方、使用者からは操作の簡便さや即時性、携帯性が評価された。しかし、「スマートフォンでは見にくい」「検索性が不十分」といった課題が共通して指摘され、利用は電子カルテ等を補完する位置づけにとどまっていた。

4. 総括と今後の展望

電子添文は広く活用されている一方で、その多くは電子カルテ等に統合された形で活用されており、専用アプリの活用は限定的であることが明らかとなった。一方で、専用アプリの携帯性や即時性は一定の評価を得ており、活用の余地は大きいと考えられた。

今後は、電子デバイスに最適化した表示、検索機能の強化、他資料やシステムとの連携など、職種や利用場面に応じた改善が、電子添文の利便性向上と活用促進に重要であると考えられた。

5. 参考研究

参考研究では、スマートフォン閲覧を想定した web 形式の一般用医薬品電子添文は、PDF 形式と比較して理解度に有意差は認められない一方、文字サイズが最適化され、画面拡大が不要である点などから可読性が高いことを示した。また、理解度は表示形式よりも、記載内容の明確さや情報構造に強く依存することを指摘した。添文ナビにおいては、スマートフォン閲覧に最適化した web

レイアウトの導入に加え、検索性や折り畳み機能の改善など、画面構成とユーザーインターフェースを一体的に設計することが、使用感改善に有効であると考えられた。

6. 研究計画に対する達成度および成果物

2年目に実施予定であったインタビュー調査の完了が遅れたものの、3年目にはインタビュー調査およびアンケート調査を完了した。また提言書を作成し、当初立案した研究計画を遂行した。

成果物として、インタビュー調査およびアンケート調査の内容をまとめ、電子的な医薬品情報の提供方法についての提言書を作成した。またアンケート調査の結果については論文作成中であり、2026年度中の公表を目指す。

- ・成果物：電子添付文書および閲覧用アプリケーションの利活用実態と、その普及に向けた調査研究-調査報告および提言書

4－2．研究業績（学会発表、論文等）

学術論文

- ・ Aomori, Nakada, Tsuda, Kiyomiya, Araki, Ito, Shimada, Akamine, Tanaka, Sakaguchi, Ohtani., A questionnaire-based study on the actual state of electronic package inserts and viewing application.
(投稿準備中)
- ・ 疋田夕真, 青森 達, 江崎雄仁, 河添 仁, 望月眞弓, 大谷壽一., Web 形式で電子化された要指導・一般用医薬品添付文書の有用性. (参考研究, 投稿中)

5. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

研究計画書から変更なし

6. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

研究計画書から変更なし

記入日（西暦）2026 年 1 月 5 日

一般社団法人日本医療薬学会 会頭 殿

医療薬学学術小委員会 研究支出報告書（最終報告）

1. 学術小委員会としての研究活動期間

（西暦）2023 年 6 月 1 日 ～ 2026 年 5 月 3 1 日まで 通算 3 年間

費 目	全期間
(1) データベースの利用料	
(2) アンケート調査費	288,585
(3) 会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費	
(4) 機器等のリース、レンタル費	
(5) 印刷、製本費	
(6) 通信、運搬費用	
(7) 講師謝金、旅費等（本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る）	
(8) 運営スタッフ雇用費	
(9) 支払手数料	
(10) 消耗品費	
(11) 業務委託費	
(12) 小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費	
(13) 倫理審査の受審料	
(14) 論文投稿料、掲載料	
(15) 雑費	22,572
合 計	311,157